

## 島根大学研究見本市

### 研究テーマ名

認知症高齢者の入浴ケアにおける「さ姫」ローズ水を用いた芳香療法の有用性  
Usefulness of aromatherapy (“SAHIME” Rose water) on bathing care for elderly with dementia

### 研究者紹介

原 祥子：医学部地域看護学講座  
Sachiko Hara : Faculty of Medicine, Department of Community Health Nursing  
竹田裕子：医学部基礎看護学講座  
Yuko Takeda : Faculty of Medicine, Department of Fundamental Nursing  
中村守彦：島根大学産学連携センター  
Morihiko Nakamura : Collaboration Center Shimane University  
福間 厚, 福間裕紀：奥出雲薔薇園  
Atsushi Fukuma, Yuki Fukuma : OKUIZUMO BARAEN

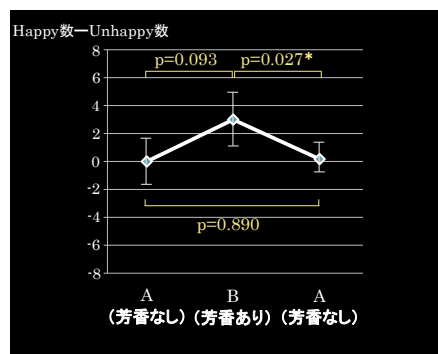
### 概要

認知症高齢者では、入浴拒否、入浴の際の攻撃性や興奮がみられることも多く、施設における入浴援助はケア提供者が最も援助困難を感じるケアでもあります。本研究の目的は、認知症高齢者の入浴場面において、攻撃性や興奮の緩和効果が期待できるローズ水を用いた芳香療法を行い、認知症高齢者とケア提供者に対する有用性を検討することです。

介護老人保健施設に入所中の認知症高齢者 6 名の方を対象に、芳香を用いた入浴(B)を 1 回、その前後に芳香を用いない通常の入浴(A)を各 1 回実施して、脱衣室と浴室における入浴行動を観察し、対象者の感情評価（「Happy」、「Neutral」、「Unhappy」に分類する）を 2 分毎に行いました。

### 特色 研究成果 今後の展望

本研究は医学部看護学科と奥出雲薔薇園による共同研究で、奥出雲薔薇園で栽培されている薔薇「さ姫」から抽出されたローズ水を用いています。このローズ水は、揮発性が高く残臭がない、水溶性で濃度の調整がしやすいという利点があり、入浴開始時間の約 10 分前から脱衣室において気化式加湿器で散布しています。



芳香を用いた時は芳香を用いない時よりも「Happy」の数と「Unhappy」の数に差が大きい結果となりました。つまり、入浴の際にローズ水を用いた芳香療法を行うと認知症高齢者の感情を穏やかにする（「Happy」にする）効果があることが示されました。

今後は、対象者を増やして検討を重ねていくとともに、ケア提供者のケア困難感や負担感に変化がみられるかどうかを検証していきます。

### キーワード

認知症高齢者、芳香療法、ローズ水、入浴ケア、感情評価、ケア困難感

### リンク

<http://www.shimane-u-kango.jp/>